

犯罪

濁いた音の連なりが
僕の無為の創造をかき消し
塗りつぶそうとする
無為であるが故に
ただ無為であるが故に

降り注ぐのは
ああ、僕に降り注ぐのは
もはや陽光ではなく
生活そのもの
過去とは縁のない現在と、そして未来

灰色の雲が流れ過ぎてゆく
寒い風
吸い込んでくれ、この僕を
あの雲の中へ
この大気とともに

誰かが僕を引き戻そうとする
守るべきものへと
遥か胸の彼方
無為であることの哀しみと
そして慄え

流浪と浪費の中で
この手に抱きたい
ああ、孤独であることの自由を
無為であることの孤独を
この両手に

(1997.10.29)